



小山 豊 Oyama Yutaka

津軽三味線／唄／作編曲  
東京都出身。津軽三味線小山流三代目。これ迄30カ国60都市以上で演奏。古典以外でも桑田佳祐、松山千春、嵐ほか全国ツアーや楽曲に参加。『鬼滅の刃 遊郭編』では善逸が弾く三味線の音を担当、数々のゲームやアニメ、映画音楽の録音ほか、津軽三味線や民謡の魅力をも幅広く伝えている。



大多和正樹 Otawa Masaki

和太鼓  
千葉県出身。クラシックピアノ、ドラムや剣道の経験が集約、昇華した圧倒的な演奏技術と音楽性で、様々なパフォーマンスとのコラボレーションを国内外で幅広く展開。後進への指導にも尽力している。1999年 富士山太鼓フェスティバル「大太鼓一人打ちコンテスト」優勝、2005年 千葉市芸術文化新人賞受賞。



渥美幸裕 Atsumi Yukihiro

ギター／作編曲  
静岡県出身。Japanese Guitarを標榜。日本の伝統音楽を、ギターを通して現代にアップデートし、その魅力を世界に伝え、次世代へ継承するプロジェクト(邦楽二〇)を主宰。京都を制作拠点とし、これまでに祇園宮川町の芸妓、文楽座、天台声明など、様々な邦楽、民謡の演奏者と共演を続けている。



守 真人 Mori Masato

ドラム  
埼玉県出身。幼少時よりプロテスタント系教会で音楽に触れたことを契機にドラムを始める。大学卒業後、東京ザヴィヌルパッハ・スペシャルに参加、ジャズフリーゲル奏者・シンガーのTOKUのバンドでの演奏ほか、崎山蒼志、尾崎裕哉、武田真治他、数々のアーティストとの共演を重ねている。



白藤ひかり Shirafuji Hikari

津軽三味線／お囃子  
兵庫県出身。駒澤大学卒業。9歳より祖母の影響で津軽三味線を始め、津軽三味線を故・福士豊秋、二代目成田雲竹女に師事。2019年 津軽三味線日本一決定戦 日本一の部 優勝ほか数々の受賞歴を誇る。武田佳泉と津軽三味線ユニット(輝&輝)を結成し、オリジナリティ溢れる活動を展開している。



マーティ・ホロベック Marty Holoubek

ベース  
オーストラリア・アデレード出身。10代でベースを始め頭角を現す。その後、移住したメルボルンで様々なアーティストと共演を重ねて芸術性が開花。2018年 新たな探求のため東京に拠点を移す。日野皓正、Jim O'Rourke、石橋英子他数々の著名なアーティストと共演し篤い信頼を集めている。



武田佳泉 Takeda Kanami

津軽三味線／お囃子  
愛知県稲沢市出身。国立音楽大学卒業。中学時代に神谷茂良師の演奏に感動し津軽三味線を始める。津軽民謡を故・福士豊秋、二代目成田雲竹女に師事。2011年 津軽三味線全日本金木大会一般の部A級優勝ほか数多くの受賞歴を持つ。白藤ひかりと結成した(輝&輝)での活動が熱い注目を集めている。



磯部舞子 Isobe Maiko

バイオリン  
東京都出身。5歳の時「ばいよりん」という語感に惹かれ「バイオリン」を始める。OLを夢見るも就活を怠り、紆余曲折の後、様々な出会いに恵まれ、「野良」バイオリニストとして現在に至る。ロック、弾き語り、東欧音楽、民謡、能、演劇等、様々なフィールドでのライブを生きがいに活動中。



駒田早代 Komada Sayo

津軽三味線／唄  
三重県出身。2022年 東京藝術大学音楽学部邦楽科(三味線音楽専攻)を卒業。2019年 津軽三味線世界大会女性A級優勝。日本民謡協会公認・民謡アンバサダー。SNS動画再生は1300万回を超え、アイフル「おかみ侍」篇テレビCMに出演。民謡・津軽三味線演奏家として熱い注目を集めている。



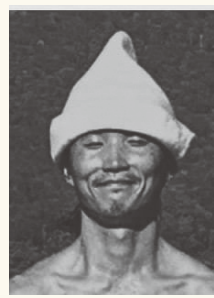
栗林すみれ Kuribayashi Sumire

ピアノ  
埼玉県出身。2014年 1stアルバムがディスクグランプリニュースター賞受賞。2018年 ジャズライフ誌で表紙を飾り、アルバム"I will touch you"は2021年 イタリアのベストジャズアルバム100に選ばれる。国内外での活動も目覚ましく、唯一無二の音色と型にとられない演奏で多くの聴衆を魅了している。



小湊昭尚 Kominato Akihisa

尺八  
福島県出身。琴古流尺八奏者、オーケストラ奏者、民謡小湊流三代目家元。4歳より民謡の舞台活動を開始。故人間国宝山口五郎に師事。東京藝術大学卒業。2004年 avex から[ZAN]でメジャー・全米デビュー。NHK大河ドラマほか数多くのテレビ、映画、アニメ、ゲームの録音に参加。



藤山 誠 Fujiyama Makoto

映像  
大阪府出身。撮影、編集ほか映像制作全般ほか、Webデザイン、UXデザイン、Illustrationなども手がける。また、現代音響絵画演奏への試み、自然と向き合うことで人間の在り方の本質を思考するプロジェクト(テントサウナパーティ(ARE .sauna))を主催するなど、多彩な活動を展開中。



# 東京民謡倶楽部

Tokyo Minyo Club



徳島県  
徳島県

令和6年6月30日[日] あわぎんホール1Fホール

開場| 13:30 開演| 14:00 終演| 16:00(予定) (徳島県郷土文化会館)

主催:公益財団法人徳島県文化振興財団 助成:一般財団法人地域創造 企画協力:古典空間







# 民謡

とは？

時代、地域、仕事、自然、そして祭り…  
人々は、「願い」「祈り」と共に、これらと向き合ってきました。  
そんな中で、食べて飲んで、働いて、寝て…  
人々の“当たり前”の日々の暮らしから生まれた「民の謡」。  
「民謡」は、私たちの生活に最も密接な大衆音楽であり、私たちの心の拠り所とも言える音楽なのです。

## 春駒(郡上節より)【岐阜】

へ郡上は馬どこ あの磨すの里  
名馬出したも 気良の里  
長良川の上流、岐阜県の中央部にある郡上八幡。その藩主はお盆になると、土農工商の別なく共に楽しむ踊りを保護、奨励したという。十曲ある郡上節の一つが「春駒」。

## 炭坑節【福岡】

へ月が出た出た 月が出た  
三池炭坑の 上に出た  
筑豊・三池炭坑地帯で、選炭作業に唄われた仕事唄。曲は明治に流行した「ラップ節」から出たものと言われる。第二次世界大戦後に騒ぎ唄・盆踊り唄として全国に広まった。

## 花笠音頭【山形】

へめでためでの 若松様よ  
枝も栄えて 葉も茂る  
昭和13年(1938)頃、「胴突(地突)き唄」をもとに、伴奏や踊りの振りも付けられ「花笠音頭」が生まれたという。昭和25年(1950)、山形市役所主催の民謡大会で大評判となり、以後山形県の代表的な唄となる。

## こきりこ節【富山】

へこきりこの竹は 七寸五分じゃ  
長い袖の かなかいじゃ  
富山県南砺市、合掌造りや生糸で名高い五箇山。「こきりこ」は、屋根裏で燻された竹を七寸五分に切り、両手に一本づつ持って巧みに回転させながら打つ楽器。中世の田楽の流れを汲む唄とも言われる。

## 木頭音頭【徳島】

へ今宵一夜は お月も冴えな  
とりもたらうな 夜も明けな  
徳島県那賀郡那賀町の和無田八幡神社で、8月14日に行われる古い盆踊り「木頭踊り」で唄われる。ゆるやかな「五つ拍子」と軽快なテンポの「千鳥」がある。

## ソーラン節【北海道】

へ鯨来たかと 鷗に問えば  
私しゃ立つ鳥 波に聞け  
「ソーランソーラン」という囃子言葉からの命名。沖揚げ音頭。北海道西北部沿海の鯨漁の際、沖合で獲った魚を、陸へ運搬する船にすくい上げる作業中に唄われた労働唄「沖揚げ音頭」を起源とする。

## 弥三郎節【青森】

へ一つ 木造新田の 下相野  
村のはずれの 弥三郎家  
西津軽郡の伊藤弥三郎は隣村の娘を嫁にもらったが、親は嫁をいびり、弥三郎も冷たく、嫁は泣く泣く実家に戻る…この話を互版売りが「数え唄」にして唄い歩いたため、弥三郎一家はたまたま逃げだした。

## 津軽じょんがら節【青森】

へお国自慢のじょんから節よ  
若衆唄えば主人の囃し  
娘踊れば稲穂も踊る  
様々な説があるが、慶長2年(1597)に落城した城主の霊を慰めるため、家臣らが同情と哀愁を込めて唄ったものとされている。「じょんから」とは、城主の墓がある「上河原」が訛ったと言われている。

## 斎太郎節【宮城】

へ松島の 瑞巖寺ほどの 寺もない  
牡鹿半島付近の沿岸で唄われる漁師船の櫓漕ぎ唄とも、「さいたら節」という祝い唄とも言われる。昭和2年(1927)頃に編曲されたものが「大漁唄い込み」の名で知られている。

## 東京音頭【東京】

へ踊り踊るなら 東京音頭  
花の都の 花の都の真ん中で  
西条八十作詞、中山晋平作曲。昭和7年(1932)の「丸の内音頭」が好評であったのに着目したビクターが、翌年歌詞の内容を変えて売り出す。西条は、故郷・東京の民謡作りが長年の願いであった。

## 伊勢音頭【三重】

へ伊勢は津で持つ  
津は伊勢で持つ  
尾張名古屋は 城で持つ  
20年に一度行われる伊勢神宮の遷宮。その御用材を運ぶ時に唄われた「木遣り唄」が、お伊勢参りの流行と共に、ヤートコセーの囃し言葉を持つ賑やかな「伊勢音頭」になったと言われている。

## 東京民謡倶楽部

世界を舞台に活躍すると共に、「和の音、和の文化の日常化」を目指す津軽三味線演奏家・小山 豊が主宰するプロジェクト。そのコンセプトを求心力に、音楽ジャンルの垣根を超えて世界各地で音楽活動を展開するアーティストたちが、和・洋を問わず結集。魂を揺するリズムとスタイリッシュなアレンジで、各地の民謡を“今の音楽”として再生し、世代を超えた共感を集めている。2023年2月に1stアルバム『東京民謡倶楽部民謡集初巻』をリリース以降、NHK民謡魂「ふるさとの唄」特集出演、イギリスを代表する音楽雑誌『Songlines』での高評価やインディーズチャートイン、オーストラリア各地のラジオ局で楽曲がオンエアされるなど、今、国内外から熱く注目されている。



# 東京民謡倶楽部

Tokyo Minyo Club